

講演会「音楽をアンサンブルから理解する

ー民族音楽学が切り拓いた音楽の学びー

日時：2023年5月14日（日）13時30分～15時00分

会場：学びピア215階研修室3 参加人数：27名

講師：永原恵三放送大学客員教授

＜講演内容の概略＞

音楽学者と演奏家の「二刀流」の立場から、具体例を挙げて「一緒に音楽する」ことを教えていただきました。また「民族音楽学」についても説明されました。

●講演会の感想（無記名）

- ・永原先生のご講演ありがとうございました。日常生活があることが再認識されて大盛況な状況でした。
- ・日常的には意識していなかったじゃんけんなど、音楽行動としてとらえる考え方に興味を持ちました。
- ・アンサンブルとは、民族音楽とはについて、内容が深く難しかったのですが、大変楽しく拝聴いたしました。
- ・音楽の聴き方について学びました。
- ・音楽の基本を聞き、今後の参考としたい。
- ・音楽の大事な一面を理解でき良かったです。例えばバッハのヨハネ受難曲の2つのパートの掛け合いのようなアンサンブルの深さを感じられた。より深く理解できて深淵にして感動しました。
- ・今回入会して初めての講演会でした。永原先生はとても楽しいお話の中にも深い学びがあり、勉強になりました。ありがとうございました。

音楽を西洋中心に考えがちだったのですが、私たちの身近なところにもたくさんいろいろな音楽に結びつくものがあり、「民族音楽」に対する考え方が変わりました。

- ・「民族音楽学」について興味を持ってみようと思わせる楽しい講義でした。内容も分かりやすく楽しく聞くことができました。西洋音楽のアンサンブルについて楽曲の成り立ちがよく理解できました。
- ・西洋音楽のアンサンブル バッハ「ヨハネ受難曲」のアンサンブルを視聴して初めて聞きましたが大感激 十字架のキリストの最期の姿が詳しく訳してあり涙が出るほどでした。言葉はわかりませんが合唱・アリア身にしみ込みよくわかりました。 ※プロテスタント教会聖日礼拝の帰りに受講しました。
- ・音楽のたのしみ方を教えていただきました。
- ・音楽は身近にあり、社会を円滑にする要素の一つにはなるのかなと感じた。より生きやすい社会、自身の健康にと音楽とがどうつながるか

を学んでみたい。

- ・ヨハネによる受難曲が非常に良かった。
- ・ありがとうございました。
- ・グレゴリオ聖歌を聴いて感じたことは、私が小さい時に母たちがお念仏をとこなしている音域と似ているなと感じました。数名でとなえあう、ひびきは、一緒に音楽をするアンサンブルなのかと思いました。私の生まれる東北でお祭りの囃等躍動的な太鼓の音を聞くと心が踊ります。昔住んでいた村は良い文化であった今になって懐かしく思っております。今日の先生のお話で、改めて音楽の力は素晴らしいなと感じておりま

す。今アコーディオンを奏てますが「一緒に音楽する」ということを常にもっておこなって行こうと思います。ありがとうございました。

- ・○じゃんけん・ポン ○はっけい・よい ○ひらけ・ごま ○ようい・どん ○チチンブイブイ ※音楽の中に真言が入っている、呪文が入っている。それらは誰に向かって発っしられていたのだろうか。もちろん～にです。

- ・目からウロコの素晴らしい講演でした。聴く方のレベルアップ、理解はこれからの大きな課題と感じています。またやってください。



講演会の様子